

PSI 執行委員会 EB-153

2018年11月14-15日

ILO 第5会議室

ジュネーブ

スイス



2018年ブラジル大統領選に関する

国際公務労連（PSI）執行委員会（EB-153）の緊急決議

スイス、ジュネーブにて2018年11月14日と15日に会合

ブラジル国民は人種差別主義、同性愛嫌悪、女性差別主義を標榜するジャイル・ボルソナロという名の人物を最近大統領に選出した

ジャイル・ボルソナロ次期大統領の当選の正当性については、彼の選挙キャンペーン中の大量の個人データ濫用とフェイクニュースのせいで、裁判所でも国民の間でも疑問視されている

ジャイル・ボルソナロ次期ブラジル大統領は、1964年から1965年までブラジル国民が耐えてきたような軍政への復活を繰り返し要求してきた

ジャイル・ボルソナロ次期ブラジル大統領は、独裁政権の唯一の過ちは拷問だけにとどめておいたことであり、もっと多くの人を殺すべきであったと言い放った

ジャイル・ボルソナロ次期ブラジル大統領は、彼が大統領になることに反対する者は、彼が政権の座に就くときに、投獄か国外亡命の2つの選択肢のいずれかになると言い放った

ジャイル・ボルソナロ次期ブラジル大統領は、彼の政府は小さい政府、減税、広範な民営化など質の高い公共サービスの提供を不可能にするネオリベラル政策を実施する意向を示してきた

ジャイル・ボルソナロ次期ブラジル大統領は、国連は無用の長物あり、彼の政権下でブラジルは国連と気候変動と闘うパリ協定から脱退すると宣言している

ジャイル・ボルソナロ次期ブラジル大統領によるブラジル地理・統計協会に対する、とりわけ雇用と失業数の計算方法（国際基準に従っている）の正当性に対する根拠のない攻撃に対して、国際労働機関（ILO）のラファエル・ディアス・メディーナ統計局長が公然と異議を唱えた

ジャイル・ボルソナロ次期ブラジル大統領は、土地なし農民運動、家無し労働者運動および労働組合そのものを含む社会運動を犯罪化することを支持している

ブラジルは環境活動家と先住民活動家にとって世界中で最悪の国の一つにランクされている

ブラジルの状況が今後悪化することは確かである

ジャイル・ボルソナロ次期ブラジル大統領が死刑、拷問および銃所有の規制緩和を支持していることに注目する

以上のようなブラジル情勢に対して、

PSI 執行委員会は、

- 暴力と不安定な状況への対応に国家暴力を使う戦略を非難する

- ブラジルの組合が、何百万もの国民と共にボルソナロ政府の政策と行動に強く抵抗することを**認める**
- ブラジル国民、とりわけ労働者階級を守る組合への連帯を**表明する**
- PSI 加盟組織に対して、国家暴力に直接・間接的に立ち向かっているブラジルの労働組合と労働組合員及び労働者に対してあらゆる形の支援と国際的連帯を差し伸べるよう**奨励する**
- PSI、EPSU およびグローバル労働組合運動がすでに行ってきた支援と行動を**歓迎する**
- ブラジルの動向に注意深く関心を示し続けることを**決議する**、そして
- 加盟組織に対し、ブラジル政府の政策と行動が公然と非難される可能性のあるあらゆる国際フォーラムにおいてブラジルの加盟組合を支持するよう**奨励する**